

信濃教育会報

第1133号

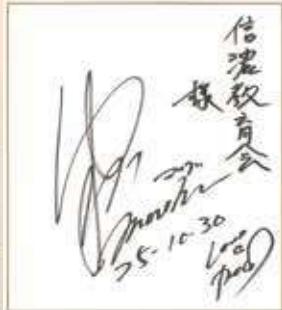
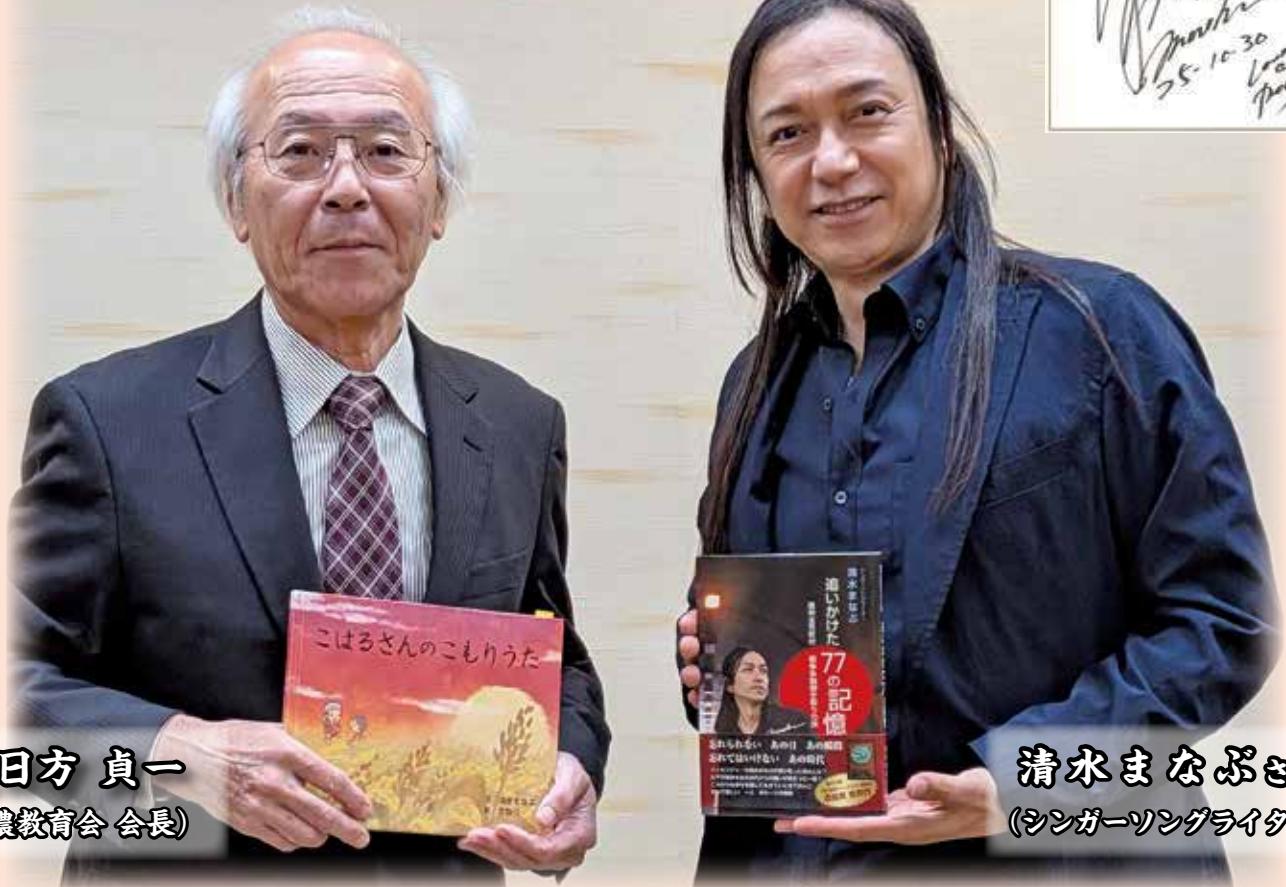
令和8年1月20日発行

目次

研修ガイド	1	会員アンケート報告	12
新春対談	2~5	日中友好事業視察報告	13
第3回臨時総会報告	6~7	退職校長会との懇談会	13
研究所報告	8~9	防災教育の案内	14
学び創造研究会報告	10	100年館の絵	14
賛助会入会案内	11		



令和7年度 新春対談



大日方 貞一
(信濃教育会 会長)

清水まなぶさん
(シンガーソングライター)

ある会合で清水さんとお行き会いし、お話をする中でそのお人柄に惹かれた大日方会長が、改めてお話を聞きたいということでこの新春対談が実現しました。令和7年10月30日、清水さんにご来館いただき、会長との対談を行いました。

2月の研修ガイド

21日(土) ●哲学対話IV ◎信州大学教育学部大講義室(図書館2F) ◇「考えることと書くこと
~対話的文章法の実践~」梶谷真司(東京大学大学院教授)
☆長野上水内教育会 026-226-2458

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等(講師名敬称略) ☆連絡先

profile プロフィール

清水まなぶ

音楽活動を中心にTV・ラジオ・俳優・イベントプロデュースとマルチに活動を続ける長野出身のシンガーソングライター。2000年小室哲哉・木根尚登氏のプロデュースにより、自身作詞・作曲の「サンキューニッポン」でデビュー。その後CMソングやドラマ主題歌、NHK連続ドラマ出演など活躍。現在テレビ信州「素敵にコンシェルジュ」レギュラー出演中。また、2007年に祖父の戦争体験手記をそのまま歌にした「回想」をリリース。以降「回想プロジェクト」として長野県内はもちろん全国の学校を回るなど音楽活動の幅を広げている。2012年よりレストランライブ「A CHAIN OF LOVE マンスリーギャザリング」を毎月開催。

回想プロジェクトHP <https://artemisplaces.wixsite.com/kaisou>



会長 今年4月に国連協会の総会で清水さんとお行き合いをした際に、活動やお人柄が非常に素晴らしくて私自身惹かれるものがございましたので、ぜひ新春対談で改めてお話を聞きできればということで、今日はこの場を作らせていただきました。最初にご出身のこととか、お仕事等についてお話ししていただけますでしょうか。

清水 実家が豊野町にあります。そこで小、中、高校まで過ごしました。小さい頃は、スポーツがすごく好きで、地元のリトルリーグだったりとか少年剣道だったりとかをやつてた記憶がありますね。中学でバレーボールをやって、その時から音楽が大好きになってみんなでバンドを組んだり。見よう見ま似的で。高校は長野東高校に行ったんですけどもね。そこでも軽音楽をやったり、あと新体操をやったりしたんですね。県下にあまりない高校だったのでインテルハイに行けるんですよ。体を動かしたりバク転バク宙はどこでもできましたね。そこから上京するんですけども、一番最初に芸能的なことで出たのは二十歳ぐらいの時ですかね。雑誌のオーディション企画に受かるんですけど、そんなにうまくはいかずにただ企画もので終わって。30手前ぐらいになった時にもう一度ね、自分を見つめ直すというか、このままどうやって人生を歩んでいくかなっていう時に、合格したのが当時の小室哲哉さんとか木根尚登さんとかそういうTKプロデュースのブームの時だったんですね。それでデビューしたのが今から25年前、



2000年ですね。長野にも、結構プロモーションで帰ってくるようになって、ラジオやテレビの方も番組をいただいたり。今はその流れでテレビ信州の『素敵にコンシェルジュ』という番組を週に1回ですけども、もう15、6年ですかね。ずっとやらせてもらっています。なのでね、今はそういう芸能みたいなしゃべる仕事。それからシンガーソングライターとして歌って聴いてもらうようなコンサート活動。もう一つが講演活動。3つの柱で活動をさせてもらっています。

会長 ありがとうございます。本（『追いかけた77の記憶 信州全市町村 戦争体験聞き取りの旅』）を読ませていただきますと、2007年におじいさんの手記をきっかけに、「回想プロジェクト」へ活動も広げてこられたということなんですかね、そこら辺のお話も少ししていただけますか。

清水 祖父が亡くなって実家で残されたものを整理していく中で、手記が出てきたんですよね。戦後何十年というきっかけに町の広報誌みたいなところに寄せた、寄せ書きみたいな形だったと思うんですけどね。その一文を読ませてもらった時に少し後悔というか、もっともっとよく聞いておけばよかったなっ



ていう気持ちがあって。それで、残された手記にメロディーをつけて感謝の気持ちを込めて祖父に贈つてみたんですよね。法事の時に「一曲だけ歌わせてください」って歌って。そしたら親戚の中から「これいいじゃないか、いろんなところで歌ってくれ」みたいな話になって。それで祖父の体験を最初にCDにさせてもらったんです。そのきっかけがあつてその後いろんな人の話を聞くようになるんですよ。祖父が残した手記が『回想』という題だったのと、「回想プロジェクト」としていろんな話を聞くようになってもう20年近いんですかね。

会長 それで、全77市町村を回られて聞き取りをされたので、77のお話が載っているんですね。

清水 やっぱり皆さん亡くなっていくんですよね。今のうちに聞いておかないと本当に過去にあった事実っていうのは風化されていっちゃうし、もしかしたら間違って伝わっちゃうのかもしれないなと思って。聞けば聞くほどいろんな意見があつて、相当俯瞰してみないと実際どうだったかっていうのはわかんないなと思って。それで改めて2015年ですかね。もっと一人でも多く聞いておきたいなと思って、長野県全部回ってみよう。

会長 白地図を広げて北からずっと回っていかれたっていうお話ですけども。本当に貴重なお話で、一つ一つ読ませていただくと、戦争の悲惨さとか不合理さとか悲しさとかそういうものがひしひしと伝わってきました。帶に「忘れてはいけないあの時代」っていう言葉がありますよね。この言葉が私の胸に突き刺さりました。



清水 ありがとうございます。歌では賞をもらったことないんですけど、これは第23回平和・共同ジャーナリスト基金賞っていう賞をいただいちゃいましてね（笑）語っていただいた方たちの賞だと思うんですけども。本当に色々と話を聞かせていただいて、その時の年齢とかいる場所とか立場によって同じ戦争を語ってもらっても捉え方が違うなと思って。だからこそ広くいろんな人の意見を聞いてみないと本

はどうだったんだろうというか。でもみんな口を揃えて言うのは、もう二度と起こしてくれるなって。自分たちもそうだけども子どもや孫には体験させたくないって。だから戦争は何があってもやめてくれっていうのはやっぱり皆さん言いますね。

会長 満州での戦争体験とか、あるいは原爆の体験とか、いろんな方々の思いがここに詰まっていますよね。それぞれ貴重なお話を聞きされて思い出に残っていらっしゃると思うんですが、絵本になっている富士見町の樋口誠さんのお話をしていただけますか。

清水 原村で話を聞いていた時に、「富士見にこういう人いるよ」って紹介してもらったのが樋口さんで、満蒙開拓の話のつながりで聞かせていただいたんですけども。歌をね、歌ってくれたんですよ。一人でいる時に口ずさみながら涙流しながら歌ってたそなんんですけど。それを聞かせていただいて、すげえな、やっぱり歌ってずっと残ってるんだなって。70数年前、ちっちゃい頃に聞いたその記憶がそのままあるんだなと思って。それでウクライナの侵攻が始まった時かな。戦争ってどんなものって聞かれた時に、わかりやすく子どもたちに伝えるにはどうしたらいいかなど。長野市の20代の漫画家のさなつさんという人に「若い人が一番自分たちの気分になって聞ける戦争の話ってどれ」って言って読んでもらって。そんなところから樋口さんの歌の物語を絵本にさせてもらって。ひとたび戦争が始まると本当に大切な人にも会えなくなっちゃうんだよってことがなんなくわかれば。そこからまた興味を持って広がっていってくれればいいかなって。

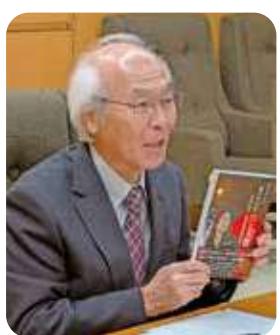


会長 ああ、そうですか。ですから、さらに聞き取りをされたんですね。「回想プロジェクト」ということで各学校を回っておられますけれども、その時にも歌を歌いながらこういう聞き取ったものをお話ししておられるんですか。

清水 ほとんどが歌ありでやらせてもらっていますね。戦

争っていうと怖いとか暗いとかそういうイメージ、あると思うし。どうやって伝えたらいいかなという時に、私ずっと歌を歌っているので。歌って意外とみんな心を開いてくれたりとか、知らなくても乗ってくれるなという実感があったので、一つのツールとして使っているということですかね。最初の『回想』という歌を作った時は、できるだけ暗くならないようにと思ったんです。暗い話を暗くどっぷりとマイナーコードで「あなたはもう忘れたかしら…」みたいになっちゃっても子どもたちが怖くなっちゃいけないなと思って（笑）祖父の体験から始まって、広島の話もありますし、満蒙開拓もありますし、特攻の話もありますし、あと石を吊るしている鐘のお寺の話とか、待っている女性のお話もあったりとか、いろんなパターンで歌はあるので、その中からそのテーマに沿ったものを選んで歌を聴いてもらって、「どうだい」って。そうすると難しい話でもなんとなくすんなり入ってくれるのかな。とりあえず印象に残ってもらって「そっか、戦争ってこんな感じだったんだ」という疑似体験というかね。だから一つこだわっているのは、自分の主観じゃなくて体験をそのままメロディーに乗せるっていうことなんですよ。良い悪いとかじゃなくて、体験談そのまま「こういうことがあったよ。みんなどう思う、考えて」って。そんな感じで体験してもらおうかなっていうのがこのプロジェクトなので。講演会に行く時は短くても長くても1曲2曲は歌を入れながら聴いてもらっています。

会長 戦争を経験した人がだんだん亡くなつて、少なくなつてきているんですけど、そういう人たちから直接お聞きするということもあるだろうし、「回想プロジェクト」のように清水さんを通して、戦争のことについてお話を聞きするということもあると思うんですけども。清水さんを通しての戦争のお話というのは、またちょっと違った趣で子どもたちに伝わるんですね。



清水 本当は当人から聞くのが一番いいんでしょうけど。体験した人は皆さんが講演家でもないだろうし。やっぱり寂しい話にもなっちゃったりするの

で、ちょっとクッションを置いて私みたいな人がフラットな形で伝えていくというのもいいのかもしれないですね。

会長 今年ももう何校か行かれているそうですね。できるだけ多くの学校へ足を運んでいただき、子どもたちや保護者や先生方とのそういう場を設けていただければと思っています。

清水 もう保護者世代が戦争とか全然知らない世代ですからね。ここで聞いてもらって一緒に考える場になってくれればいいかなって。会話のきっかけになってくれればいいかなと思ってます。もっともっと頑張っていろんなところへ参りたいと思います。



会長 話題を変えさせていただきますが、小中学校の頃はどんなお子さんでいらっしゃいましたか。思い出に残っているような学校の授業とか、先生のこととか何かありますか。

清水 中学の頃は、やっぱりみんなでバンドを組んだっていうのが一番思い出かな。本当にどんちゃかどんちゃかだけですけど（笑）それが楽しかったような気がしますね。文化祭とかそういう時に音楽室とか体育館がなんかでやって。

会長 結構他の生徒からは人気があったんじゃないですかね。

清水 ああいう時は人が集まってきたからね。全校が来ますからね。珍しがってね（笑）

会長 では、改めて今の子どもたちにメッセージとかエールを送っていただければと思うんですが。

清水 そうですね、何でもいいので、自分の大好きなことを見つけるとか興味をいろんなところに持つてほしいなと思いますね。持ったからには、想像する力を持っていてほしいなと思うんです。いろんなものに興味を持って、やりたければそれをやってみて、

失敗したら失敗したで、また次のことにチャレンジするというか。こうなつたらどうなるんだろうっていうことを想像するような力をつけていってほしいなって思いますね。



会長 本当に自分のやりたいことを追い求めて、歌作りに情熱を傾けてやってこられた清水さんのお話って、やっぱり説得力ありますね。

清水 親御さんにもよく言うんですけどね。「こういうことやっちゃいけないよ」って否定から入らないでくれってね。可能性は無限大なんだから。よっぽど危ない命にかかわるようなことだけは止めなきゃいけないかもしれないけど、あとは自由にやってみて、失敗したら失敗したで自分で立ち上がるぐらいことを持つていてほしいなっていうか。いっぱい経験して、いっぱい負けて、失敗して、それでもまた工夫して立ち上がっていくっていうか。

会長 いろいろ経験をしていくっていうことは、生きていく力を育んでいくことに繋がりますからね。ありがとうございます。最後に先生方へメッセージをいただきたいんですが。

清水 子どもたちも十人十色で、日々苦労されていると思いますので、現場にずっといるわけではない私が語るのも恐縮ですが、きっと教育現場に立たれている皆さんは子どもたちの成長を見守り、伴走し、自立した大人へ導くことを使命として自分の時間を削っても頑張られていることだと思います。自分も夢

の一つに、全学校を回り子どもたちに過去を伝えたいということがあります。人権のこと、平和のこと、手が足りなければ、先人が語ってくださった本を参考にしていただいても良いですし、私たちにお役目をふっていただいても良いので、共に未来の故郷、日本を担う子どもたちを見守っていきましょう！

会長 いろんな方が子どもたちにかかわって、いろいろことを伝えていくっていうことは、質の高い、子どもたちにとっての良い教育につながっていくと思います。そういう点では、清水さんのやっておられる活動って本当に素晴らしいと思いますので、ぜひこれからも継続していただきたいと思います。我々信濃教育会もご存知の通り、戦前、満蒙開拓青少年義勇軍を満州へ送出する際に、国策ではあったんですけども、積極的にかかわったという経緯がございます。清水さんが語っていただいているように、過去のことを次の代に伝えていくということも、我々の大事な仕事です。清水さんとともに、決して忘れてはいけない時代ということを改めて肝に銘じながら、これからもこの信濃教育会を運営していきたいと思っております。今後もいろいろなところでお力をいただきますけれどもよろしくお願ひいたします。今日は、貴重なお時間ありがとうございました。



対談内で紹介された清水さんのご著書

『追いかけた77の記憶
信州全市町村 戦争体験聞き取りの旅』
発行 信濃毎日新聞社
※第23回平和・協同ジャーナリスト基金賞 奨励賞受賞
絵本『こはるさんのかもりうた』
文 清水まなぶ・絵 さなつ／発行 回想プロジェクト



都市を越えて全県がつながる要

～良い事業は継続して伸ばす、いま一つの事業は再考を～

令和7年度第3回臨時総会が12月2日（火）に各都市教育会から選出された代議員44名の出席のもとオンラインで開催された。第1号議案、第2号議案が上程・承認され、その後7つの協議題について意見交換された。以下、臨時総会の概略を報告する。

【大日方会長あいさつ】

○地域と学校の繋がり

多くの地域では、少子化による児童生徒の減少が大きな課題となっており、その解消に向け、長年に渡り、行政のみならず、保護者・地域を交え、学校規模の適正化に関して議論を重ねている。その結果、学校の統廃合、また義務教育学校等の新たな校種の導入などに至っている市町村が出てきている。社会状況を踏まえると、学校の統廃合は無理からぬ状況と言えるが、地域の方々にとっては、学校を閉じることへの思いは複雑ではないかと思う。

かつて本県は「教育県」と言われた。その要因は様々だが、要因の一つとして、各地域に、教育尊重の気風があったことが挙げられる。具体的には、次のようなことがあった。

- ・江戸時代の寺子屋数が全国1位だったこと
- ・明治5年の学制発布前後には、県内各地に学校創設に向けた機運があったこと
- ・明治初期の就学率が全国1位だったこと
- ・当時の教員の俸給も全国1位だったこと

長野市にある下氷鉋小学校は、今年で創立152年を迎えた。その歩みは、明治6年に創立された「作新学校」に始まる。当時建設された和洋折衷様式の校舎は、「作新記念館」として今も残っており、長野市の指定有形文化財に指定されている。しかし、老朽化が激しく、近年は子どもたちが記念館に入って活動をすることは困難な状況だった。そうした中、3年前に地元の住民自治協議会役員の方が信教に来て、「記念館を改修し地域の宝として後世に伝えていきたい。ついでに、信濃教育会に改修事業への後援をお願いしたい」旨の話をされた。子どもたちの学習に役立つことにもなると考え、後援することにした。そして、先日、役員の方が、改修工事終了の報告に来館された。後援したことへのお礼と、併せて、教育に寄せる思いも、熱く語っていかれた。各地域においても、同様に地域の方々に支えられ、学校が役割を果たしてきた経緯があるのではないか。

長野県教育史を編纂した中村一雄先生は、著書の中で信州教育の源流の特筆すべき事項として、「教師の教育に対する使命」とともに「教育を支える県民の情意」を挙げている。「教育を支える県民の情意」とは、冒頭お話した「教育尊重の気風」である。かつては、地域の方は、「おらの学校」と呼び、学校を自分たち地域の宝として、様々な面で力を貸してくれていた。任地居住をしていた若い頃を思い出すと、地域の一員として温かく迎え入れてくれたことを懐かしく思い出す。改めて、地域と共に学校の歩みを振り返りながら、地域の方々の学校へ寄せる思いに心を寄せたいと思う。

○学び創造研究会

今年度から名称を「学び創造研究会」として新たなスタートを切ったが、11月末に全ての公開が終了した。私は、3校の公開に参加をさせていただいた。それぞれが特色ある実践をされており、各校、個人・グループの自主性・自律性が發揮された公開となっていた。参会の先生方にとっても、学びの多い研究会だったことと思う。

【議 事】

- (1) 第1号議案「信濃教育会生涯学習センター休館の議決」に関する件
- (2) 第2号議案「信濃教育会館空調ポンプ設備の更新の承認」に関する件

【協 議】

- (1) 令和7年度信濃教育会の事業に対する会員アンケートのまとめ
- (2) 令和7年度事業の成果と課題・今後の方向
- (3) 令和8年度予算編成方針（収入見込み）

〔協議題〕 公益社団法人として教職員の職能向上と相互扶助を支えていくために、信濃教育会の事業改革をどう進めるか。

○良い事業は継続して伸ばす、いま一つの事業は再考してほしい。学び創造研究会は、学校づくりの柱と

なったり、参加者に大きなお土産となったりしている。このような事業は広げてほしい。応募型研修助成も大変ありがたい。教育研究論文・教育実践賞でレポートをまとめることは、教職員の力量向上につながる。知らない方もいるとのことなので、全県にアピールしたい。教師塾Bは他の企画との重なりに、「極意」伝承は指導者の人選に難しさも出ているので再考をお願いしたい。

○信濃教育会は、郡市を越えて全県がつながる要であり、感謝している。学び創造研究会に本郡は3校が取り組んだが、教職員の学びを支えていただいていると感じた。これまでに、ALTと松本城をめぐる研修や日連教の大会に参加したが、郡市以外の方と出会える貴重な機会となった。全県のバランスをとった事業実施と、教育会の意義や取り組んでいる事業の周知をさらにはかってほしい。

○学びの改革が進む中で、信濃教育会の役割は大きい。応募型研修助成や学び創造研究会は、主体的に学ぶ教職員の後押しになっている。研究調査委員会に参加した若手教員が、「全県から集まった委員と学び合えて貴重だった」と語ってくれた。若い世代が全県で交流できることにも意義があると思う。各種のチラシにSNSにつながる二次元バーコードを掲載して若者世代に周知したい。

○下伊那は、信濃教育会館がある長野市とは地理的に遠い。出向いて開催される教師塾Bやオンラインによる研修は大変ありがたい。参加しやすいと、職員みんなで利用するケースもある。また、楽しい研修には、休日の企画でも参加者が多かった。魅力ある講座、事業を展開してほしい。

○教育研究団体への補助は、高校も含めて同好会に参加している教員の貴重な学びにつながっている。また、信濃教育会で教育研究団体との懇談会を設けているが、他の同好会の情報が得られてありがたい。本年度、信濃教育会で長野県内の公開授業案内のポスターを作成していただいたことも、他の状況を知ることができたり、見通しをもった参加につながつたりしたので継続してほしい。

(4) 災害見舞金事業の見舞金額の見直しについて

(5) 学び創造研究会への参画について

○貴重な機会になっている。地域の方々も巻き込んで
共に学び合える場になるとさらによいと思う。

- 昨年度は個人型で、本年度は学校型で取り組んだ。
学校全体で取り組んだことにより、授業公開をした
2名の教師の成長に加え、児童の学びや教科の系統
性等について学校全体で学び合うことができた。

○教育研究所所長の岩川先生を共同研究者に迎え、教師の子ども観や指導観を大事にして取り組んだ。その結果、生徒を見て自分はどう寄り添うかを考える姿になってきた。職員研修にして公開に参加した近

隣の学校が複数あった。地域での広がりにつながっている。

○学び創造研究会に取り組む同僚を見て、本年度は自ら挑戦した職員がいた。若い先生方の活力になり、学ぶ気風が伝わっている。

○校内で「探究」について考えてきた。内から外に発信して参加者と共に学び合いたいと考えて次年度の学び創造に立候補した。

- (6) 第77回日連教長野大会兼第140回信濃教育会総集会
 - (7) 日中友好事業における訪中について

- (1) 今後の事業について
 - (2) 教育研究所の応募状況
 - (3) 令和7年度図書教材研究協議会アンケートのまとめ
 - (4) 第22回信州“教育の日”について
 - (5) 令和8年度教師塾Bについて
 - (6) 出版物（休み帳等）の採択状況
 - (7) 令和7年度第29回教育研究論文・教育実践賞の募集

2つの議案について承認いただいたこと、信濃教育会の事業について様々なご意見をいただいたことに、まず感謝したい。協議等をお聞きして思ったことを二つお話しする。

長野市にある信濃教育会館は、東北信の方は行きやすいが中南信の方にとっては行きにくさがある。長野市が遠いというイメージを、物理的に持たれることはやむを得ないところであるが、精神的な距離が遠くならないよう配慮することをいっそ大切にしたい。具体的には、講習講座の開催場所について全県でバランスをとることや、出向いての委員会実施、オンラインによる研修等を計画して事業を進めたい。

二つ目は、学び創造研究会のこと。この研究会は、先生方が自主的主体的に参画して自ら職能向上を図っていただきことに寄与する信濃教育会の象徴的な事業である。今年も24の学校、個人・グループが取り組んだ。「研究会が学校改革につながった」「学校だけでなく地域ともつながった」「地域や校種を超えた研修の機会になった」等、有効に活用いただいていることは大変ありがたい。学び創造研究会は、会員一人一人、皆さんの会。今後も知恵を出し合って活用いただくことで、全国にも誇れる研究会にと願う。信濃教育会の学び創造研究会に、しばりはない。県教委が行っている TOCO-TON（トコトン）とは、位置づけが異なる。学校や個人、グループの皆さんのが、やりたいことを、共同研究者の方と共に存分にやっていただきたいと思う。

今年も残すところ1か月ほどとなった。インフルエンザも猛威を振るっている。激務のことと思うが、くれぐれもご自愛いただきたい。

共に問い合わせた1年間

2025年度 第79期研究員

子どもと分かち合うということは？

子どもが見つめる先に何があるのか？

その子を物語るとは？

子どもは何を願っているのか？



その子といた自分を問い合わせ返すとは？

PICK UP 1 心に残った言葉

所長・特任所員をはじめ、多くの先生方にご講義いただきました



岩川 直樹所長

その子の歩み、その
子の一歩。そこにある意味を
分かち合っていくのが授業、
そして教育。



奈須 正裕先生

「私（子ども）の
都合」に一生懸
命、先生が寄り添ってくれた
という経験が大事。



松木 健一先生

「教師はいかに
して育つか」とい
う視点で考えたとき「実践を
語り合う文化があるか否か」
ということがとても重要。



高柳 充利先生

子どもがどんなこと
をやっていたのか、
何が起こっていたのかを丁寧
に見ていく。それが省察。



大日方 貞一会長

教師は専門性を高
めることと同時に、自分を磨
き、豊かな人間性を養ってい
くことが大切。

武田県教育長や佐伯前所長、
信教にお勤めの部長先生方の
お話を聞きましたよ！



PICK UP 2 研究所での学びを振り返る

6人の学びや考えの変化を、
キーワードにしてまとめてみました！

私は子ども
との間に、
“温かさ”が
あるといい
なと思う。

小林愛奈

子ども 信じる
見つめる 育つ かかわる 応える 伝わる
振り返る 息苦しい まなざし 追究 向き合う 奥深い
捉える 感じる 問う 探る 気付かず
応じる 話し合う 伝える 取り組む
受け止める づらい 居る

増田啓介

佐藤健二

土屋大輔

田牧 謙

中澤智恵

「わかる・できる」も大
切なんだけど、その子ら
しい学びを感じることも
必要だよね。

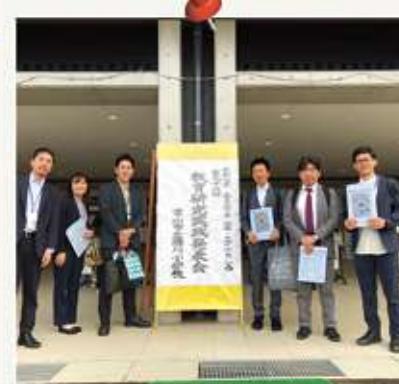
目の前の子どもがどんな思
いでそこに居るのか、それ
に向き合うことが大切だと、
私は思ったよ。

トラブルがあればそれに「対
処」していたけど、子どもの
気持ちに「応え」ようとする
ことが大切なんだね。

PICK UP 3 学校視察や遠足も…♪



【南アルプス子どもの村小中学校】への視察
加藤校長先生と懇談しました！



【富山市立堀川小学校】への視察
6人で授業研究会に参加しました！



【総合の源流の地を巡る淀川遠足】
今年はみんなで松代へ！

学びの種はどこにあるかわからない！
研究所で学ぶって、本当に楽しい！



「子どもが心ゆくまで探究する授業」へのプロセス

～学び創造研究会～

令和7年度「学び創造研究会」の公開が11月28日（金）を最後に終了しました。

この研究会は、より自主性自律性そして自由度の高い研究を目指して、本年度から「学び創造研究会」と改称しました。ベースとなる授業観「子ども自らが、心ゆくまで探究する授業」をふまえ、試行錯誤しながらも楽しみながら研究することを大切に考えて、公募制で研究者、研究校を募ってきました。本年度は24の研究が公開され、延べ700名を超える参加者がありました。それぞれの会場で、熱心に学ぶ参加者の姿がありました。

本年度の学び創造研究会では次のような傾向が見られました。

○「授業を実際に参観する」、「研究のプロセスを知る」、「広く教育について語り合う」など、教育課程研究協議会に代わる新たな研修の機会としてとらえている。

e x : 地域の学校間で連絡を取り合い、午後を研修の時間として参加する。地域ごとのまとまりで研修を行う。

○学校種、職種を越えての参加が増えてきている。

e x : 高校の先生が初任研として参加

：市町村教育委員会が視察 特に自由進度学習や総合的な学習の時間の研究

：教採に合格した学生が、実際の授業や研究会を知る機会

○授業研究会や共同研究者のワークショップの工夫（提案）がなされている。

e x : 授業のやり方、評価などの視点からではなく、子どもたちの学びを語り合う。

：共同研究者によるワークショップ、研究主任や授業者との対談を行う。

それぞれの研究については、Booklet 信教に掲載しています。ぜひご一読ください。

次年度の「学び創造研究会」は、18の開催校（授業者、学校）で開催される予定です。研究する側にも参加する側にも実りある研究になることを期待しています。



入会のおすすめ

「信濃教育会賛助会員会」

～退職後も信教とともに学び続けましょう～

長年教職にあり、本県教育文化の向上発展にご尽力くださいましたことに対し、心から敬意を表します。信濃教育会賛助会員会は、長野県教職員として勤務し、退職した方全員が、職種・職階の別なく入会でき、手を取り合って研修に努め、賛助・親睦・助け合いを願って活動している団体です。令和7年度退職または退職予定の先生方には、その意義をご理解いただき、入会くださいますよう心からお願い申しあげます。（なお、退職後、再任用や市町村教育委員会等教育関係機関へ勤務される方は信濃教育会への再入会をお勧めします。）

信濃教育会賛助会員会とは

【会の目的・内容】

信濃教育会・郡市教育会事業への賛助、会員相互の研修親睦、長野県教育の振興発展に寄与

1 長野県教育に関する諸問題の解明と世論の喚起

- ①教育問題検討会（代議員・本部役員で構成）
- ②信教との懇談会
- ③信州“教育の日”（構成団体として参加）

2 地域における生涯学習の環境整備と推進

- ①郡市教育会の事業を賛助
(夏季大、同好会等への参加等)
- ②郡賛助会員会活動の充実
(地域研修、実技講習、郡市教育会との懇談、会報発行、学校現場へのボランティア等)

3 公益社団法人信濃教育会の事業への賛助

- ①総集会への参加（開催地会員を中心に）
- ②信濃教育会の運営と活動への賛助
- ③雑誌『信濃教育』『学事関係職員録』の購読、購入促進

4 会員相互の研修・厚生・連絡

- ①総会（講演会・郡市活動報告）
- ②会報（年3回発行）
- ③県内研修視察旅行
- ④弔意（弔辞奉呈・会報に弔意掲載）

【会員の資格】

信濃教育会会員だった人、ならびに会の目的に賛同する人

申込みについて

1 入会の申込み

「信濃教育会賛助会員会入会申し込み」はがきを4月1日（水）までに、入会したい郡市の賛助会員会代議員宛てにお出しください。

入会されない場合も必ずお出しください。申し込みはがきおよび郡市賛助会員会代議員名簿等は、後日各人宛てにお届けします。

※なお、信濃教育会事業への賛助ということから雑誌『信濃教育』の購読および『学事関係職員録』の購入募集もあわせていたします。

2 会 費

年額 3,000円

3 会費納入方法

後日、振替用紙を送付しますので、郵便局またはコンビニから振り込んでください。

4 会員の特典

- ・本会会報（年3回発行）
- ・県内研修視察旅行への参加
- ・信濃教育会事業案内の送付



研修視察旅行(長野上水内)

会員アンケート報告

お忙しい中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。本年度は小中特校あわせて119校、1454名の方から回答をいただきました（回答率82.8%）。結果の一部をお知らせするとともに、次年度以降の事業に生かして参ります。

■ 今後、信濃教育会で必要と考える研究調査活動

- ・創造的な学びのための研究
 - 例) 自由進度学習、インクルーシブな視点からの研究、地域材を活かした学び、現代的課題への対応 等
 - ・子どもとのかかわりや子ども同士のかかわり、保護者対応等についての研究
 - ・信州教育にかかわる研究
 - ・ICT 機器の利活用による授業及び学級事務等校務の合理化（DX化）に関する研究 等

■ 講習・講座

- ・楽しく学びのある講座が多く、今後もぜひ充実させてほしい。
- ・教員として経験の浅い方にとって大変有意義な研修の場になっている（教師塾B）。
- ・個人では体験しにくいような、また地域の伝統文化に触れられるような講座を期待したい。

■ 自主的校内研修補助事業、短期視察研修補助事業、学び続ける教師への助成事業について

- ・大変ありがたい、今後も継続をお願いしたい。（多數）
- ・主体的に学ぼうとする教師の研修を支えていく非常に有効な事業だと感じる。
- ・大変有意義な事業だが現場で知らない人も多いので、参加しやすい仕組みづくりをお願いしたい。

■ 学び創造研究会について

- ・「やりたい」から出発する授業研究のあり方が素晴らしい。
- ・「挙手方式」になり、年々参加校（個人も）が増えているが、手を挙げた学校や個人が全て助成を受けられるような予算立てをお願いしたい。
- ・研究にかかわる負のイメージを払拭していきたい。意欲的な取組を広く発信していただきたい。

■ 信濃教育会のあり方について

- ・学校や教師の主体的参加を促す現在の方向性がよい。
- ・自分の学び続ける姿勢を保つために信濃教育会には学びの機会を提供してもらっていると思っている。若い先生にも興味がわくような学びの機会をこれからも作っていただきたい。
- ・会員が減っていると聞くが、私たち中堅が若い世代を巻き込んで学ぼうとする姿勢を見せていく必要がある。
- ・時代の変化に合わせて組織のあり方も考えていくべきだ。会員が入っていてよかったと思える取組をさらに増やしていただきたい。

※会員の声は元の思いを変えないように一部編集して掲載しています。

《アンケートを受けて》

○今年度、全県研究大会の名称を「学び創造研究会」に変更しました。先生方の自主的・主体的な取組が定着しており、意欲的な取組を広く紹介しつつ、今後も先生方の「授業づくりを研究したい、学びたい」を支援できるよう運営して参ります。

○信州の各地域の特色を学び、リラックスもできる体験型の講習・講座に魅力を感じる会員の声に応え、内容をさらに充実させ、東北中南信のバランスに配慮して開催して参ります。講習・講座以外の事業開催地も考慮して参ります。

○応募型研修助成事業や災害見舞金事業等、会員に広く利用していただくためにさらに周知を図って参ります。

○時代の変化に合わせて改革を進める中で、不斷に教育会の意義や必要性を考え合うとともに、事業の効率的な運営や会員の負担軽減、さらには事業の重点化を図りながら、時代に即し会員にとって魅力ある信濃教育会となるよう努めて参ります。



日中友好事業視察報告

11月2日（日）から5日（水）までの3泊4日の日程で、中国の哈爾濱市を訪問しました。新型コロナウイルスの感染拡大等の理由により、5年間、中止となっていましたが、今年度は、慰靈と教育交流を中心とした内容での再開に向けた現地関係者との打ち合わせも兼ねて、会員代表2名（議長・前常任委員会副委員長）と事務局2名で、訪問しました。

主な日程

- 11月2日日 成田空港から哈爾濱市へ移動（空路約3時間）
- 3日月 方正県 中日友好園林（日本人公墓 墓参）
- 4日火 「侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館」見学
- 5日水 帰国

《方正県 中日友好園林（日本人公墓）》

日本人公墓は哈爾濱市から車で北に約3時間、道中の畠には雪がうっすらと積もる程に寒い方正県にひっそりと建てられています。

1963年、中国政府が第二次世界大戦中、方正県で犠牲になった日本人約5,500人の遺骨を拾い集め、墓を建立してくださいました。1973年、現在の場所に移設され、中国政府のもとで管理されています。2011年までは自由に入ることができましたが、現在は施設内に入ることはできません。今回の訪中にあたっては現地機関に日本人公墓での墓参を依頼しましたが、公墓内に入ることは叶いませんでした。門の外からでしたが、慰靈してきました。



日本人公墓がある中日友好園林入口の前



侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館

《侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館》

罪証陳列館には、第二次世界大戦中に日本軍が哈爾濱市内を拠点に活動していた「七三一部隊」に関する資料や元隊員の証言などが、展示されていました。

学校視察などの教育交流についても、現地機関に相談・依頼をしましたが、諸所の事情により実現できませんでした。

今後の訪中については、日中の国際関係の状況等を見据えながら慎重に検討してまいります。

3泊4日の短い期間でしたが、今回の訪中を通じて、改めて戦争の悲惨さを痛感し、同じ過ちを繰り返さないために、次の世代に伝えていく重要さを実感した視察となりました。

退職校長会との懇談会

12月3日（水）退職校長会の役員の皆様と懇談会を実施しました。応募型研修助成の活用例や学び創造研究会の公募制の意味・成果等が話題となりました。先生方の意欲や主体性を尊重し研究内容や方法などこれまでのカタチにとらわれることなく様々な実践が試みられていること、先生方のやる気やつながりを共々に支援していきたいことなどのご助言をいただきました。研修意欲を育む、人を育てる、という点で信濃教育会が果す役割や今後への期待について熱い思いのあふれる懇談となりました。



ふるってご参加を！

東日本大地震・能登半島地震発災後の 「今」だから 伝えたいことがあります

防災教育とは… 想像力・主体性を 大切にした 「学び」の窓口

視察先の学校で、「避難訓練を実効性あるものにしていく」「子どもも教員も考える、気づきのある避難訓練を行う」というお話をされました。「何か一步でも踏みだしたい」そのような気持ちで取り組んできました。

〈研究調査委員より〉

「誰にでも未来を創る能力がある」

〈講演会講師 佐々木 克敬先生より〉

信濃教育

予告



「我が校の授業研究」

四年時から絵画の時間には学年のテーマだけを決めておき、作品作りに取り組んできました。六年時のテーマは「思い出をかかえて」です。このテーマに添いながら個人追求できるような学習力一式を作成しました。学習カードに添つて作成した簡単なスケッチ（自分自身が表現したい形や、模様などを元にテーマに合った自分の考えを絵にまとめていきました。本校は教科担任で図画工作を行つてるので六年生の全児童が同様に制作を進めてきました。皆が各々構想を練つて楽しんでやつていました。

そんな制作過程で、柏木陽花さんは、あふれ出てくる様々な思い出の品々や模様、色加減のスケッチに熱心に取り組み、それら一つの画面にどう

やつてレイアウトしようか等樂しんで表現していました。
教科担任として、児童にどんな風にしていきたいかな?という問いを時々発問し、また、必要な表現技法を必要な児童に体験してもらいつつ、別の技法を学びたい児童には特殊な表現技法を教科担任と共に体験しました。「取り入れたい」と思える技法を取り入れながら、じっくりと表現を楽しめていました。陽花さんはそんな活動の中で、自分らしさをとても大事にし、描いては遠くから眺めたりしながら、「もうちょっと、ここを濃くしてみようかな」など一人でつぶやいては作品作りにのめりこんでいました。

土屋 幸江（美南ガ丘小学校）

100年館の絆

令和6年度 永年保存作品 今を生きる子どもの絵



好きな宇宙がつまつたビン

柏木 陽花（美南ガ丘小6年）

信濃教育博物館所藏

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEI 026(232)2470

URL: <https://shinkyoo.or.jp> 邮箱: shinkyoo@shinkyoo.or.jp

編集兼発行人／大日方貞一

